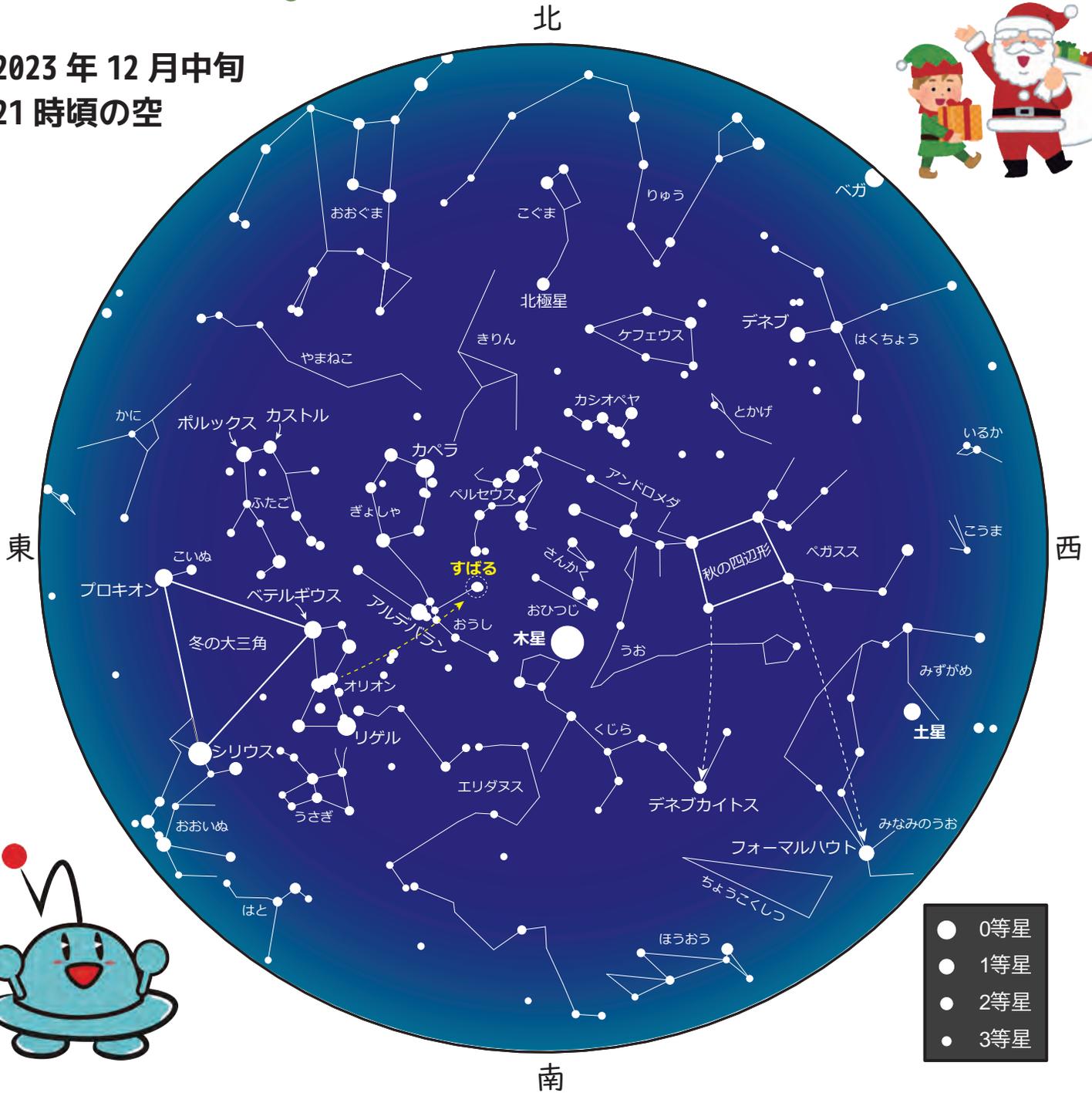


阿南市科学センター

12月の星空案内

2023年12月中旬
21時頃の空



12月に入り、この夏から秋かけて見ごろとなっていた**土星**が西の空に傾き、今年はそろそろ見納め。その一方で、天高い位置には**木星**の輝きが目立ち、まるでクリスマスツリーの天辺に飾りつけるベツレヘムの星のようですね。そして寒い冬を告げるかのように、東よりの空には冬の星座たちが昇っています。オリオン座の**ベテルギウス**、おおいぬ座の**シリウス**、こいぬ座の**プロキオン**をつなげば**冬の大三角**を形作ることができます。これらの星や星座は小学4年生の理科で学習します。オリオン座を見つけた人は、中央の三つ星を空の高いほうへ延ばしてみましょう。すると、頭の高い位置で**すばる**と呼ばれる星の集まり（星団）を見つけることができます。肉眼では5～6個星の集まりとして見え、双眼鏡を使えばさらに多くの星を見つけることができます。

【お知らせ】 建物の大規模改修工事に伴い 2023年12月～2024年2月中旬まで臨時休館致します。

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

12月の月の満ち欠けと惑星について



下弦
5日



新月
13日



上弦
20日



満月
27日

水星：12月上旬頃、日没後の西のごく低空で見える【-0.4等】

金星：夜明け前、東の低空で見える（明けの明星）【約-4.1等】

火星：太陽に近く観察は難しい【1.4等】

木星：日没後、南東寄りの空で見え始め観察しやすい【約-2.7等】

土星：日没後、南西の低空で見え始め前半夜に沈む【約0.9等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ（水星のみ月上旬頃の明るさ）。

君は水星を見つけることができるか？

水星は肉眼で見える惑星ですが、実は観察難易度がとても高い対象です。この12月～3月にかけて水星が見つけやすい条件の日があるので、夕方西のごく低空か、明け方東のごく低空で、是非チャレンジしてみましょう！



今月の天文現象

【最良の条件！ふたご座流星群】

毎年、活発な出現をみせてくれるふたご座流星群。ピーク時は1時間に数十個もの流星を見つけることができ、今年のピークは12月15日午前4時頃(JST)と予報されています。さらに今年は月明かりの影響も無く、条件は最良と言っても良いでしょう。観察をしたい方は14日の晩から未明にかけてが最もおすすめです。観察ポイントは、放射点にとらわれず、なるべく空の開けた場所で、空全体を見渡すように行くと良いでしょう（放射点から離れた位置で流れることも多々あるからです）。科学センターは12月から臨時休館に入りますが、ふたご座流星群については、屋外につき観察会を14日の晩に催す予定です。

ちなみに、日本の研究グループは、ふたご座流星群の起源として知られる小惑星ファエトンに探査機(Destiny+)を向かわせる計画を進めており、2025年に探査機が打ち上げられる予定です。



図1：ふたご座流星群の放射点の位置
(2023年12月14日20時30分頃の空)。

イチオシ天体写真

【ぎょしゃ座の散光星雲たち】

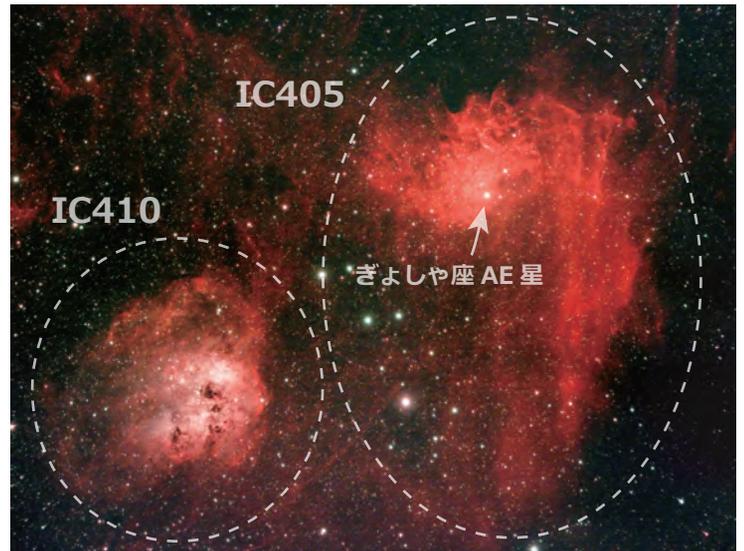


図2：ぎょしゃ座で輝く散光星雲IC405とIC410（撮影：K. Imamura）。
D=6.1cm (F5.9) + x0.8 reducer + L-eXtreme + ASI294MCpro。
※この写真は一般財団法人全国科学博物館振興財団の支援を受け撮影しています。

冬の星座ぎょしゃ座には幾つもの星雲・星団が位置しており、天文愛好家の間では大人気の領域の一つです。図2はぎょしゃ座で輝くIC405とIC410という散光星雲です。この輝きは宇宙を漂う主に水素ガスの発光によって生じ、写真に撮ることで、淡く赤っぽい姿が浮かび上がります。星雲の形は千差万別で、しばしばその見た目の形に応じた愛称がつけられています。例えばIC405は「勾玉星雲」、IC410は「おたまじゃくし星雲」と呼ばれています。

なお、IC405にはぎょしゃ座AE星という天体があり、この星は別称「逃亡星(runaway star)」と言います。天文学者によれば、かつてはオリオン座に属する星でしたが、星同士の衝突によって弾き飛ばされ、ぎょしゃ座の位置まで移動してきたと考えられています。